

## 雑 想 二 題

統数研 石 田 正 次

### その 1. 樅の木の蜂蜜

5, 6年前のことフライブルグ市郊外の山姥谷(Hexental)という恐ろしい名前のところの一ヶ月半ばかり下宿していたことがある。そこの主にふさわしい顔つきの下宿のオバサン(箒操従士として二種免許は固いというのが運転術評論家北村さんの判定である)はドイツ語のわからぬ小生を生けにえにしていじめるのが毎日の楽しみであった。毎朝七時半になると必ずヤーヤーソーソーと私の部屋に入ってきてまず第一に、昨夜はなぜ遅くなったのか、今日はどこに何しに行くかを報告させるのである。ある朝、「キヨーコノ山イク。プロダンセンセトイッショ」的なことを地図を示しながら報告に及ぶと、急にうれしそうな顔になり、そこでタンネンホニヒなるものを買ってこいという。タンネもホニヒも私の乏しい語彙の中に辛うじて含まれてはいたものの、タンネとホニヒがどう結びつくのか私にはさっぱりわからず、何度も聞き直してみたが、ただニコニコして「ヤーヤーソーソータンネンホニヒ」を繰り返すだけで一向に埒が開かない。えいままよと下宿をとびだし、プロダン先生にタンネンホニヒとは何かと尋ねてみたところ、正しく樅の木の蜜であるという。樅から蜜が取れるかと再び尋ねると、いとも当然と「取れる」との返事。プロダン・オバサンの運転する自動車に乗せられて目ざす山へ。車内でプロダン先生がタンネンホニヒの話をオバサンにすればオバサンは高笑い。何かかつがれているのではと、ひがんでみてもどうしようもない。やがて目的地につき、先生の後に従って山を一廻りして車にもどってみるとオバサンどこで買い求めたのか蜜のビンを二つ両手にかかげて、ニコニコしながらその一つを私に差し出した。これを大事に持って帰り下宿のオバサンに献上に及ぶと「ヤーヤーソーソーよくぞ我がいいつけを汝は了解した」とおほめにあずかった。

何日かしてドイツ林学の泰斗北村教授に再会。そこで再び「樅から蜜が取れるか」の質問をすれば「異国において異なるものに出くわすは必然。これは是なり」との返事。更にディドロウ学派の総帥菅原教授にその話をすれば、

「科学的に説明すれば次の如き次第である。樅の木にはアブラムシがつく。このアブラムシが甘い分泌物を出す。これを蜂が集めたのがほかならぬこのタンネンホニヒである。」

この道にかけてまったく無知なる者にはこの種の説明の説得力は大きい。

日本に立ち帰り早速自慢話である。ダニの権威福山君をつかまえて菅原学説をブったところ、

「まーてよー。ドイツにそんなアブラムシいたかなー」

と首をかしげた。あれほど私を感心させた菅原学説もなんだか急に色あせてくる。これを側で聞いていたゴミムシ学者の仁木君が新説をだした。

「蜂はアブラムシの分泌物をなめるのではなく 直接縦の木の花粉を喰うのである。花粉の成分は蜂の唾液によって簡単に糖化する性質をもっている。」

この学説もまたほんとといえはんとらしい。もしこれが真実ならばプロダン・北村学説が再び脚光をあびることになる。

何年かして今度はフランスはボージュの山に入った。こゝでまず目に入ったものは、

miel de sapin

の立札。ドイツばかりではなく、フランスの縦も蜜を出すらしい。誰かこの真相を知る者はいないか!

## その2 「もり」と「はやし」はどちらが大きいか?

「Forest とは林のことで、これより大きいのを Wald とか Wood つまり森という」こんなことを私は昔誰だか忘れたが、さる林学者から教わったまゝつい数年前までこれを信じて疑うことをしなかった。つまり、この段階では「もり」は「はやし」より大きくなければならなかった。しかし村の鎮守の「もり」とはいうが、鎮守の「はやし」とはいわず、しかもこの「もり」はほとんどの場合それほど大きくはない。とすれば、「もり」は必ずしも大きな「はやし」とは限らないことになる。そこで国語学者の林大先生(林知己夫先生ではない。本物の国語学者である)に「もり」と「はやし」はどちらが大きいかを尋ねてみた。先生の説明は次の通りである。

そもそも「もり」とは盛りの意味、つまり盛そば、山盛り、こんもりの「もり」であり、一方「はやし」は生やし、つまり一斉に生えそろったものの意味である。だから「もり」も「はやし」も本来は必ずしも樹木の集団を意味するものではなく、いわんやどちらが大きいかなどという質問は、まったくナンセンスである。

こうなると昔は蒲の「はやし」とか葦の「もり」といった使い方もあったかもしれない。いずれにせよ「もり」も「はやし」もいつしか樹木の集団を意味するようになったことは事実であり、特に、「もり」の方は神の宿る木立ちの意味に多く使われるようになったそうである。この場合、「もり」に杜の字があてられることがあるが、これは日本人の漢字ミス・ユースで、杜とはそもそもヤマナシという特定の木を意味するとのことである。

この話を人に会うたびに言いふらしたところ、東北出身の男が「俺の方じゃ山のことを“もり”と言うよ」との事。これにはちょっと困ったが、四手井先生がいい事を教えてくれた。「そういえば、「もり」と呼ばれる山は頂上まで木があるよ。ありゃやっばり、こんもりのもりだな。」これで林学説はいよいよ震がぬものになり、森林限界以上に聳えたつ山嶽は絶対に「もり」といわないはずである。もしそんな山があるとすれば、名前をつけた者が盲であったにちがいない。

さて今度は林と森とはどちらが大きいかという問題である。康熙字典で調べたところ、林とは木竹が叢生しているところであり、森とは樹木の多いさまを表わす形容詞であることがわかった。つまり森林とは「もり」や「はやし」ではなく、高い樹木がたくさん生えている「はやし」の意味であって

「もり」に森の字を当てはめるのはこれまた漢字のミス・ユースということになる。低木の森林とか木のまばらな森林といった使い方は間違いで森林といえ、どこから見ても立派な林でなければならない。

更に、Wald と Forest はどちらが大きいかという問題が残る。我々はWald とかWoodはゲルマン系、Forest はラテン系の言葉であると教えられてきた。なるほど英語やドイツ語の歴史の本を見るとWald もWood も元は同じものでこれが森林を意味すると書いてある。しかし forest とか foresta の氏素性はどれもはっきりしない。格調の高いラテン語辞典には foresta はでていないし、ガリヤ戦記の中にも現れない。ラテン語で森林を意味する言葉は sylvia で、これが神格化されると sylvanus となる。Sylvanus は松の葉っぱを頭につけた、ひげだらけで赤ら顔の木こりのとつぁんである。風采も上らなければ神としての位も低い。新しいラテン語辞典には forestis は sylvia と同義とあり forestarius は森林に住む人、林務官となっている。

いつ forestis が sylvia の地位をおびやかすようになったのかは不明であるが、少くも中世においては foresta が王侯の御料林の意味に用いられていたことは確かである。

英語辞典を引くと forest は unenclosed wood land or hunting ground とか large tract covered with trees and undergrowth sometimes mixed with pasture とある。英国では forest はかなり大きく、しかも必ずしも樹木がなくともよい。一方 wood の方は growing trees occupying considerable tract of ground とあるから必ず木がなければならず、これは時として forest に含まれることもある。(wood より更に小さいのに、grove というのがあり、気どった英国人がこの言葉をよく使う。)しかし、Sherwood forest とか Wychwood Forest といった言葉もあるので一概に forest が wood より大きいと決めつけるわけにもいくまい。

forest が unenclosed なら enclosed の方は park (large enclosed piece of ground with woodland and pasture) である。そして forest も park も英国にあっては私有の狩猟場の意味が強いそうである。

ドイツ語辞典で Forst を引くと、regelrecht bewirtschafteter Wald の意味で7世紀前後に於ては王侯貴族の所有林を Forst といったと書いてある。故にドイツにあっては Forst は Wald に完全に含まれ、しかも規則的に管理経営されていなければならない。だから日本の国有林の一部はドイツ流でみると Wald ではあるが Forst ではないことになる。

フランスでの bois と forêt の関係は英語の wood と forest のそれとほぼ同じである。これは古くから王様が行ったり来たりしていた勢かもしれない。

結局のところ、「もり」と「はやし」はどちらが大きいかという問題は次のようになろう。

1. 日本では勝負なし。
2. 中国では森は形容詞で名詞ではないので、林だけしかなく勝負にならない。

3. 英国仏国では wood が forest に含まれることがあるので forest の方が pasture の分だけ大きい。
4. ドイツでは Forest は Wald の一種であるから、概念的な意味で Wald の方が大きい。